



FlexCache の二重性

ONTAP 9

NetApp
February 05, 2026

目次

FlexCache の二重性	1
FlexCache の二重性に関するよくある質問	1
よくある質問	1
NAS FlexCache ボリュームへのS3アクセスを有効にする	2
前提条件	2
ステップ1：証明書を作成して署名する	2
ステップ2：S3サーバーを構成する	6
ステップ3：クライアントを設定する	8

FlexCache の二重性

FlexCache の二重性に関するよくある質問

このFAQでは、ONTAP 9.18.1で導入されたFlexCacheデュアリティに関するよくある質問にお答えします。

よくある質問

「二重性」とは何でしょうか？

Duality により、ファイル（NAS）プロトコルとオブジェクト（S3）プロトコルの両方を使用して同じデータへの統合アクセスが可能になります。ONTAP 9.12.1でFlexCacheサポートなしで導入されたdualityは、ONTAP 9.18.1でFlexCacheボリュームを含むように拡張され、FlexCacheボリュームにキャッシュされたNASファイルへのS3プロトコル アクセスが可能になりました。

FlexCache S3 バケットでサポートされている **S3** 操作は何ですか？

標準S3 NASバケットでサポートされているS3操作は、FlexCache S3 NASバケットでサポートされていますが、`COPY`操作は除きます。標準S3 NASバケットでサポートされていない操作の最新リストについては、"[相互運用性ドキュメント](#)"を参照してください。

FlexCache デュアリティで **FlexCache** をライトバック モードで使用できますか。

いいえ。FlexCache S3 NASバケットがFlexCacheボリュームに作成される場合、FlexCacheボリュームはライトアラウンドモードになっている*必要があります*。FlexCache S3 NASバケットをライトバックモードのFlexCacheボリュームに作成しようとすると、操作は失敗します。

ハードウェアの制限により、クラスターの 1 つを **ONTAP 9.18.1** にアップグレードできません。キャッシュクラスターのみが **ONTAP 9.18.1** を実行している場合でも、クラスター内で二重性は機能しますか？

いいえ。キャッシュ クラスターとオリジン クラスターの両方で、最低有効クラスター バージョンは 9.18.1 である必要があります。9.18.1 より前の ONTAP バージョンを実行しているオリジンとピア接続されたキャッシュ クラスターで FlexCache S3 NAS バケットを作成しようとすると、操作は失敗します。

私は**MetroCluster**構成を持っています。**FlexCache**デュアリティを使用できますか？

いいえ。FlexCache の二重性は MetroCluster 構成ではサポートされていません。

FlexCache S3 NAS バケット内のファイルへの **S3** アクセスを監査できますか？

S3監査は、FlexCacheボリュームが使用するNAS監査機能によって提供されます。FlexCacheボリュームのNAS監査の詳細については、"[FlexCache 監査の詳細](#)"を参照してください。

キャッシュ クラスターが元のクラスターから切断された場合、何が起こるのでしょうか？

FlexCache S3 NASバケットへのS3リクエストは、キャッシュ クラスターが元のクラスターから切断されている場合、`503 Service Unavailable`エラーで失敗します。

マルチパート **S3** オペレーションを **FlexCache** デュアリティで使用できますか？

マルチパートS3オペレーションが機能するには、基盤となるFlexCacheボリュームのgranular-dataフィールドを「advanced」に設定する必要があります。このフィールドは、元のボリュームに設定されている値に設定されます。

FlexCache の二重性は **HTTP** および **HTTPS** アクセスをサポートしますか？

はい。デフォルトでは、HTTPS が必須です。必要に応じて、HTTP アクセスを許可するように S3 サービスを設定できます。

NAS FlexCache ボリュームへのS3アクセスを有効にする

ONTAP 9.18.1以降では、NAS FlexCacheボリュームへのS3アクセスを有効にすることができます。これは「デュアリティ」とも呼ばれます。これにより、クライアントは、NFSやSMBなどの従来のNASプロトコルに加えて、S3プロトコルを使用してFlexCacheボリュームに格納されたデータにアクセスできます。以下の情報を使用して、FlexCacheデュアリティを設定できます。

前提条件

開始する前に、次の前提条件を満たしていることを確認する必要があります：

- S3 プロトコルと必要な NAS プロトコル（NFS、SMB、またはその両方）が SVM でライセンスされ、設定されていることを確認します。
- DNS およびその他の必要なサービスが設定されていることを確認します。
- クラスタと SVM のピア関係を確立
- FlexCache ボリュームの作成
- データ LIF が作成されました



FlexCache の二重性に関するより詳細なドキュメントについては、"[ONTAP S3 マルチプロトコル サポート](#)"を参照してください。

ステップ1：証明書を作成して署名する

S3アクセスをFlexCacheボリュームに対して有効にするには、FlexCacheボリュームをホストするSVMの証明書をインストールする必要があります。この例では自己署名証明書を使用していますが、本番環境では、信頼できる証明機関（CA）によって署名された証明書を使用する必要があります。

1. SVM ルート CA を作成します：

```
security certificate create -vserver <svm> -type root-ca -common-name  
<arbitrary_name>
```

2. 証明書署名要求を生成する：

```
security certificate generate-csr -common-name <dns_name_of_data_lif>  
-dns-name <dns_name_of_data_lif> -ipaddr <data_lif_ip>
```

出力例：

```

-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIICzjCCAbYCAQAwHzEdMBsGA1UEAxMUy2FjaGUxZy1kYXRhLm5hcy5sYWwgEi
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAwggEKAoIBAQCusJk07508Uh329cHI6x+BaRS2
w5wrqvzoYlidXtYmdCH3m1DDprBiAyfIwBC0/iU3Xd5NpB7nc1wK1CI2VEkrXGUg
...
vMIGN351+FgzLQ4X51KfoMXCV70NqIakxzEmkTIUDKv7n9EVZ4b5DTTlrL03X/nK
+Bim2y2y180PaFB3NauZHTnIIzIc8zCp2IEqmFWyMDcdBjP9KS0+jNm4QhuXiM8F
D7gm3g/O70qa5OxbAEal5o4NbOl95U0T0rwqTaSzFG0XQnK2PmA1OIwS5ET35p3Z
dLU=
-----END CERTIFICATE REQUEST-----

```

秘密鍵の例：

```

-----BEGIN PRIVATE KEY-----
MIIEvAIBADANBgkqhkiG9w0BAQEFAASCBywggSiAgEAAoIBAQCusJk07508Uh32
9cHI6x+BaRS2w5wrqvzoYlidXtYmdCH3m1DDprBiAyfIwBC0/iU3Xd5NpB7nc1wK
1CI2VEkrXGUgWbtxlK4IlrCTB829Q1aLGAQXVyWnzhQc4tS5PW/DsQ8t7olZ9zEI
...
rXGEdDaqp7jQGNXUGlxbO3zcBil1/A9Hc6oalNECgYBKwe3PeZamiwhIHLy9ph7w
dJfFCshsPalMuAp2OuKIANa9l6ft9y5kf9tIbskT+t5Dth8bmV9pwe8UZaK5eC4
Svxml19jHT5Qql0DaZVUmMXFKyKoqPDdfvcDk2Eb5gMfIIb0a3TPC/jqqpDn9BzuH
TO02fuRvRR/G/HUz2yRd+A==
-----END PRIVATE KEY-----

```



将来の参照用に証明書要求と秘密キーのコピーを保管してください。

3. 証明書に署名します：

`root-ca`は、<<anchor1-step, SVMルートCAを作成する>>で作成したものです。

```

certificate sign -ca <svm_root_ca> -ca-serial <svm_root_ca_sn> -expire
-days 364 -format PEM -vserver <svm>

```

4. 証明書署名要求を生成するで生成された証明書署名要求（CSR）を貼り付けます。

例：

```

-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIICzjCCAbYCAQAwHzEdMBsGA1UEAxMUy2FjaGUxZy1kYXRhLm5hcy5sYWwgEi
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAwggEKAoIBAQCusJk07508Uh329cHI6x+BaRS2
w5wrqvzoYlidXtYmdCH3m1DDprBiAyfIwBC0/iU3Xd5NpB7nc1wK1CI2VEkrXGUg
...
vMIGN351+FgzLQ4X5lKfoMXCV70NqIakxzEmkTIUDKv7n9EVZ4b5DTTlrL03X/nK
+Bim2y2y180PaFB3NauZHTnIIzIc8zCp2IEqmFWyMDcdBjP9KS0+jNm4QhuXiM8F
D7gm3g/O70qa5OxbAEal5o4NbOl95U0T0rwqTaSzFG0XQnK2PmA1OIwS5ET35p3Z
dLU=
-----END CERTIFICATE REQUEST-----

```

これにより、次の例のように、署名された証明書がコンソールに出力されます。

署名された証明書の例：

```

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDdzCCA1+gAwIBAgIIGHolbgv5DPowDQYJKoZIhvcNAQELBQAwLjEfMB0GA1UE
AxMwYy2FjaGUtMTY0Zy1zdm0tcm9vdC1jYTELMAkGA1UEBhMCVVMwHhcNMjUxMTIw
MjIxNTU0WhcNMjYxMTIwMjIxNTU0WjAfMR0wGwYDVQQDEXRjYWNoZTFnLWRhdGEu
...
qS7zhj3ikWE3Gp9s+QijKWXx/0HDDlUuGqy0QZNqNm/M0mqVnokJNk5F4fBFxMiR
1o63BxL8xGIRdtTCjjb2Gq2Wj7EC1Uw6CykEkxAcVk+XrRtArGkNtcYdtHfUsKVE
wswvv0rNydrNnWhJLhSl8TW5Tex+OMYTXgk9/3K8kB0mAMrtxxYjt8tm+gztktivf
J0eoluDJhaNxqwEZRzFyGaa4k1+56oFzRfTc
-----END CERTIFICATE-----

```

5. 次のステップのために証明書をコピーします。
6. SVM にサーバー証明書をインストールします：

```

certificate install -type server -vserver <svm> -cert-name flexcache-
duality

```

7. [証明書に署名する](#)から署名された証明書を貼り付けます。

例：

```

Please enter Certificate: Press <Enter> [twice] when done
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDdzCCAl+gAwIBAgIIGHolbgv5DPowDQYJKoZIhvcNAQELBQAwLjEfMB0GA1UE
AxMWY2FjaGUtMTY0Zy1zdm0tcm9vdC1jYTELMakGA1UEBhMCVVMwHhcNMjUxMTIx
MjIxNTU4WhcNMjYxMTIwMjIxNTU4WjAfMR0wGwYDVQQDEXRjYWNoZTFnLWRhdGEu
bmFzLmxhYjCCASIwDQYJKoZIhvcNAQEBBQADggEPADCCAQoCggEBAK6wmTTvk7xS
...
qS7zhj3ikWE3Gp9s+QijKWXx/0Hdd1UuGqy0QZNqNm/M0mqVnokJNk5F4fBFxMiR
1o63BxL8xGIRdtTCjjb2Gq2Wj7EclUw6CykEkxAcVk+XrRtArGkNtcYdtHfUsKVE
wswvv0rNydrNnWhJLhSl8TW5Tex+OMyTXgk9/3K8kB0mAMrtxxYjt8tm+gztktivf
J0eoluDJhaNxqwEZRzFyGaa4k1+56oFzRfTc
-----END CERTIFICATE-----

```

8. [証明書署名要求を生成する](#)で生成された秘密鍵を貼り付けます。

例：

```

Please enter Private Key: Press <Enter> [twice] when done
-----BEGIN PRIVATE KEY-----
MIIEvAIBADANBgkqhkiG9w0BAQEFAASCBywggSiAgEAAoIBAQCusJk07508Uh32
9cHI6x+BaRS2w5wrqvzoYlIdXtYmdCH3m1DDprBiAyfIwBC0/iU3Xd5NpB7nc1wK
1CI2VEkrXGUgWbtx1K4IlrCTB829Q1aLGAQXVyWnzhQc4tS5PW/DsQ8t7olZ9zEI
W/gaElaajgpXIwGNWZ+weKQK+yoolxC+gy4IUE7WvnEUiezaIdoqzyPhYq5GC4XWf
0johpQuGOpE0/w2nVFRWJoFQp3ZP3NZAXc8H0qkRB6SjaM243XV2jnuEzX2joXvT
wHHH+IBAQ2JDs7s1TY0I20e49J2Fx2+HvUxDx4BHao7CCHA1+MnmEl+9E38wTaEk
NLsU724ZAgMBAAECggEABHUY06wxcIk5h03S9Ik1FDZV3JWzsu5gGdLSQOHRd5W+
...
rXGEdDaqp7jQGNXUGlxb03zcBil1/A9Hc6oalNECgYBKwe3PeZamiwhIHLy9ph7w
dJfFCshsPalMuAp2OuKIANa9l6ft9y5kf9tIbskT+t5Dth8bmV9pwe8UZaK5eC4
Svxm19jHT5Qql0DaZVUmMXFKyKoqPDdfvcDk2Eb5gMfIIb0a3TPC/jqqpDn9BzuH
TO02fuRvRR/G/HUz2yRd+A==
-----END PRIVATE KEY-----

```

9. サーバー証明書の証明書チェーンを形成する認証局（CA）の証明書を入力します。

これは、サーバー証明書の発行 CA 証明書から始まり、ルート CA 証明書までの範囲になります。

```
Do you want to continue entering root and/or intermediate certificates
{y|n}: n
```

You should keep a copy of the private key and the CA-signed digital certificate for future reference.

The installed certificate's CA and serial number for reference:

CA: cache-164g-svm-root-ca

serial: 187A256E0BF90CFA

10. SVM ルート CA の公開キーを取得します：

```
security certificate show -vserver <svm> -common-name <root_ca_cn> -ca
<root_ca_cn> -type root-ca -instance
```

-----BEGIN CERTIFICATE-----

```
MIIDgTCCAmmgAwIBAgIIIGHokTnbsHKEwDQYJKoZIhvcNAQELBQAwLjEfMB0GA1UE
AxMwY2FjaGUtMTY0Zy1zdm0tcm9vdC1jYTELMakGA1UEBhMCVVMwHhcNMjUxMTIx
MjE1NTIzWhcNMjYxMTIxMjE1NTIzWjAuMR8wHQYDVQQDExZjYWN0ZS0xNjRnLXN2
bS1yb290LWNhMQswCQYDVQQGEwJVUzCCASIwDQYJKoZIhvcNAQEBBQADggEPADCC
```

...

```
DoOL7vZFFt44xd+rp0DwafhSnLH5HNhdIAfa2JvZW+eJ7rgevH9wmOzyc1vaihl3
Ewtb6cz1a/mtESSYRNBmGkIGM/SFCy5v1ROZXCzF96XPbYQN4cW0AYI3AHYBZP0A
HlNzDR8iml4k9IuKf6BHLFA+VwLTJJZKrdf5Jvjgh0trGAbQGI/Hp2Bjuiopkui+
n4aa5Rz0JFQopqQddAYnMuvqc10CyNn7S0vF/XLd3fJaprH8kQ==
```

-----END CERTIFICATE-----



これは、SVM ルート CA によって署名された証明書をクライアントが信頼するように設定するために必要です。公開鍵はコンソールに表示されます。公開鍵をコピーして保存します。このコマンドの値は、[SVMルートCAを作成する](#)で入力したものと同じです。

ステップ2：S3サーバーを構成する

1. S3 プロトコル アクセスを有効にする：

```
vserver show -vserver <svm> -fields allowed-protocols
```



デフォルトでは、S3 は SVM レベルで許可されます。

2. 既存のポリシーを複製します：


```
network interface service-policy clone -vserver <svm> -policy default-  
data-files -target-vserver <svm> -target-policy <any_name>
```

3. クローンされたポリシーに S3 を追加します：

```
network interface service-policy add-service -vserver <svm> -policy  
<any_name> -service data-s3-server
```

4. 新しいポリシーをデータ LIF に追加します：

```
network interface modify -vserver <svm> -lif <data_lif> -service-policy  
duality
```



既存の LIF のサービス ポリシーを変更すると、混乱が生じる可能性があります。LIF を停止し、新しいサービスのリスナーを使用して再起動する必要があります。TCP はすぐに回復するはずですが、潜在的な影響に注意してください。

5. SVM 上に S3 オブジェクト ストア サーバーを作成します：

```
vserver object-store-server create -vserver <svm> -object-store-server  
<dns_name_of_data_lif> -certificate-name flexcache-duality
```

6. FlexCacheボリュームでS3機能を有効にする：

`flexcache config`オプション `--is-s3-enabled`を
`true`に設定してから、バケットを作成する必要があります。また、`--is-writeback-
enabled`オプションを `false`に設定する必要があります。

次のコマンドは、既存のFlexCacheを変更します：

```
flexcache config modify -vserver <svm> -volume <fcache_vol> -is  
-writeback-enabled false --is-s3-enabled true
```

7. S3 バケットを作成します：

```
vserver object-store-server bucket create -vserver <svm> -bucket  
<bucket_name> -type nas -nas-path <flexcache_junction_path>
```

8. バケットポリシーを作成します：

```
vserver object-store-server bucket policy add-statement -vserver <svm>  
-bucket <bucket_name> -effect allow
```

9. S3ユーザを作成します。

```
vserver object-store-server user create -user <user> -comment ""
```

出力例：

```
Vserver: <svm>>  
  User: <user>>  
Access Key: WCOT7...Y7D6U  
Secret Key: 6143s...pd__P  
  Warning: The secret key won't be displayed again. Save this key for  
future use.
```

10. ルートユーザのキーを再生成します：

```
vserver object-store-server user regenerate-keys -vserver <svm> -user  
root
```

出力例：

```
Vserver: <svm>>  
  User: root  
Access Key: US791...2F1RB  
Secret Key: tgYmn...8_3o2  
  Warning: The secret key won't be displayed again. Save this key for  
future use.
```

ステップ3：クライアントを設定する

利用可能な S3 クライアントは多数あります。始めるには AWS CLI が適しています。詳細については、["AWS CLI のインストール"](#)を参照してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。